

令和4年度【第1回】府中市保健計画・食育推進計画推進協議会

日時：令和4年6月20日（月）

午後6時45分～8時15分

場所：保健センター1階第1・第2母子保健室

- 出席者 藤原 佳典（学識経験者・独立行政法人東京都健康長寿医療センター
研究所 社会参加と地域保健研究チーム研究部長）
- 日田 安寿美（学識経験者・東京農業大学）
- 深美 義秋（社会福祉・府中市社会福祉協議会事務局長）
- 井手 徳彦（医療・府中市医師会）
- 黒米 俊哉（医療・府中市歯科医師会）
- 村木 正明（商工・むさし府中商工会議所）
- 稲元 麻里（農業 マインズ農業協同組合）
- 田邊 純子（運動・府中市立介護予防推進センター）
- 深井 園子（行政・多摩府中保健所）
- 松本 祐子（行政・多摩府中保健所）
- 清水 春美（公募による市民）
- 平河 弘子（公募による市民）

事務局：柏木福祉保健部長

小森福祉保健部次長

梶田健康推進課長

矢野東健康推進課長補佐

小澤保健師（健康推進課・成人保健係）

田中保健師（健康推進課・成人保健係）

中山保健師（健康推進課・成人保健係）

斉藤保健師（健康推進課・成人保健係）

山田歯科衛生士（健康推進課・成人保健係）

植松歯科衛生士（健康推進課・成人保健係）

中鉢栄養士（健康推進課・成人保健係）

松村栄養士（健康推進課・成人保健係）

※協議会規則第4条の2項により委員13名のうち、12名が出席しているため、本協議会は有効となる。

■進行：矢野東課長補佐

・開会宣言

・開催における注意事項

新型コロナウイルス感染の感染拡大予防に配慮した会議運営について説明

- ・配布資料確認 ※配布資料は別添参照

1 委嘱状交付

2 福祉保健部長 挨拶

3 委員紹介 (資料1)

4 正副会長選出 (資料2-2)

「府中市保健計画・食育推進計画推進協議会規則」第3条に基づき、委員の互選

- ・会長 藤原委員
- ・副会長 日田委員

5 協議会の位置づけ及び目的について (資料2-1)

「府中市附属機関の設置等に関する条例〈抜粋〉」に基づき、次第5の本協議会の位置づけおよび目的について説明する。

- ・傍聴希望なし

■これより、議事進行は会長となる。

6 議事

(1) 新型コロナウイルス感染症について (資料3)

【事務局】

新型コロナウイルス感染症について報告いたします。

1. 感染症対策については、府中市新型コロナウイルス感染症対策本部を令和2年2月17日に設置し、事業実施の方向性や緊急事態宣言下での施設使用等、市の対応方針を決定するための会議を本日までに68回開催しております。

情報については、広報・市ホームページ・配信メール等での啓発と合わせて、ワクチン接種の促進に努めております。ワクチン接種の状況については、後程詳細を説明いたします。

自宅療養者等への食料品等支援については、8月31日から開始し、各月の配送状況を表に、あわせて「市内患者発生件数」はグラフでお示ししております。本年1月の「6波」の際の自宅療養者の急増に伴い、食料等支援の配送件数も連動して増えた経過がございます。現在、感染状況は落ち着いておりますが、必要な方への支援を継続しております。

次に、資料裏面のワクチン接種の状況についてご報告いたします。3回目のワクチン接種実施率について、全体としては7割以上の接種率ではありますが、若い年代の方の接種率が低くなっております。本市に限った傾向ではございませんが、休日や夜間に実施する等、希望する方が接種しやすい環境づくりを行っております。

また、4回目接種についても先週から開始しております。

【会長】

ご質問、ご意見いかがでしょうか。

【委員】

接種率の関係について、3回目を受けていらっしゃる方とか、控えている方が多いと聞いていて、71.3%というのは結構高いと個人的には受け止めたところですが、26市の状況や近隣市の状況がもし分かれば教えていただきたい。

【事務局】

26市の状況でいうとほとんどの市が7割を超える接種率というところになっております。人口が少ない自治体の方が接種率がより高いというような傾向もございます。本市の状況にあった接種をこれからも進めてまいります。

【事務局】

接種率の計算については、注意書きにも示しておりますとおり、3回目の接種券発送された方に対しての数をお示ししております。実際に人口でみた接種率となりますと直近では府中市は64%ということで26市では一番低い接種率になっております。この要因については、府中市は接種を始めたのが、高い年齢からの順番で始めており、若い40代以下の方たちの接種予約の受付が9月の半ばから開始しております。最初2回接種をしなければならないという状況から、若い方たちが2回目を打ち終えたのがおそらく11月ぐらいにはいつてから、というところからの3回目はちょうど今の時期迎えております。みなさん肌で感じていらっしゃる通り、なんとなくコロナが落ち着いたのかなという雰囲気若い方に対しての接種意欲というものを削ぐような形になってしまっているの、府中市の進め方がそういった形で、まずは年の高い方から順次進めたことと、その若い方が3回目の接種を迎えるタイミングがたまたまコロナの落ち着いた時期と重なったことが相まって、近隣に比べ府中市としては低い状況になっているというところでございます。

【会長】

ありがとうございました。井手委員、診療の視点からいかがでしょうか。

【委員】

接種が始まったのが去年の夏でしたので、当初は混乱もありましたし、国からワクチン供給を待っていた時期もありましたので、医師会としてはよくがんばってこの形だと思っています。お話があった通り、感染症として比較的落ち着いていますので、粛々と進めていけば良いと思っています。

【会長】

ありがとうございます。このまま落ち着いてくれたらよいというところでしょうか。本件についてはよろしいでしょうか。3(2)の議事について、事務局よりお願いします。

(2) 令和3年度事業報告及び令和4年度事業計画について

ア 元気いっぱいサポート事業 (資料4-1)

【事務局】

元気いっぱいサポート事業についてご説明します。元気いっぱいサポート事業は、イベントや講座、グループ活動などを通して人とのつながりが重要となる事業です。令和3年度に

については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けまして、多くの人が集まるようなイベントや講座は、感染予防の観点から中止となりましたが、コロナ禍でも健康意識を高めてもらえるようサポーター通信を作成し、元気いっぱいサポーターへ健康情報を発信しました。自主グループ活動では、各グループとも例年同様の活動はできておりませんが、各グループで活動内容を検討し、定例会や勉強会、ウォーキングなど感染予防をしながら、コロナ禍でもできることを実施しました。

令和4年度については、令和3年度同様に、新型コロナウイルス感染症の感染予防の観点から多くの人が集まるようなイベントや講座は、実施しない予定となっています。そのため、令和4年度も引き続きサポーター通信を作成し、元気いっぱいサポーターへの送付を予定しています。さらに、コロナ禍で実施できていなかったサポーターリーダー会の実施も予定しています。自主グループ同士の交流を通して、他グループの活動状況などを知り、お互いの士気を高め、健康意識の向上や人と人とのつながりを広げることを目的に、感染対策をした上で開催する予定です。

自主グループ活動については、各グループで活動内容を検討し、コロナ禍でもできることを実施しております。「ノルディックでつながる会」では、定例会及び自主ウォークを実施し、新しいウォーキングマップの作成に向けてコースの検討を行います。「おはなしブーメラン」では、定例会及び勉強会を実施し、市内保育所やママとねんねの赤ちゃんの会で読み聞かせを継続して実施していきます。市としましては、グループの意向を確認しながら活動が活性化するよう引き続き支援していきます。

【会長】

ご質問、ご意見いかがでしょうか。

【委員】

取組としては久しぶりになってしまうので、リーダーだけが頑張っていて、その他の方々は何だっけというような感じになっていると思います。サポート事業がある、というところの周知から始めることになるになると思うので、市民の皆さんへ取組をしていますというアピールは何か特別考えているのでしょうか。

【事務局】

現在サポーター登録していただいている方に対しては、サポーター通信などで、コロナ禍でもできる健康活動の情報発信を継続しておりますが、サポーターではない方々につきましては、そもそもこの事業の周知ができていない状況です。元気いっぱいサポート事業ではないのですが、コロナ禍において健康教育という事業も多くを中断していたところがございます。今年度はこの健康教育の事業を再開していく予定ですので、サポーターではない方々に対して、健康教育の機会などもうまく活用しながら、この事業の啓発と活性を目指していきたいと考えております。

【委員】

復活まで2年かけるということですよ。

【事務局】

令和4年度は養成講座自体が実施できないので、今年度中に少し助走をつけて再開できるように、準備を進めていきたいと思う。

【会長】

清水委員、実際に元気いっぱいサポーターの最前線で取り組んでいらっしゃる中で何か感想等いかがでしょうか。

【委員】

元気いっぱいサポーターに入っており、ノルディックでつながる会では地域を3つに分けて、人数を7名前後で歩くようにしております。歩き方も、ウォーキングマップを中心に、信号を確認するなど、自分たちで更新しています。メンバーが増えていないことに加え、リモートワークになった関係でお孫さんやご家族のサポートにまわらなければならず、退会された方も1人、2人といらっしゃいました。

おはなしブーメランのほうにつきましては、保育園は3件あったところ1件に減ってはおりますが、こちらのほうが新しい企画の「ねんねの会」も今頑張っております。手探り状態なところもあるような、でも着実に一步步進んでおります。

【会長】

市のスピードは感染等気を付けながら慎重にすすめているが、市民のほうがフットワーク軽くいけることもあると思うので、コラボが大事かなと思います。

【委員】

落ち着いているとはいえ、決していないわけではないので近所の方々も個人でウォーキングなさっています。繋がりを付けようとすると、大丈夫かな、という不安がまだ皆さんにあるので、もう少しコロナ自体が落ち着き、お互いの情報共有の仕方も工夫しないと、受け入れられないこともあるのではと思いながら過ごしています。

イ 食育推進事業について (資料4-2)

【事務局】

食育推進事業について、ご説明いたします。食育推進事業については、元気いっぱいサポーター事業と同様に新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、集客を伴う食育推進リーダー養成講座等の実施を休止している状況ですが、コロナ禍でできることを検討し、関係機関や教育機関・企業等との連携を図りながら、取組を実施しています。

市で養成している食育推進リーダーの自主グループ「食育推進リーダー パブリカ」については、令和3年度中はコロナ禍による集合形式での活動は休止となりましたが、「旬の府中産野菜を使用したレシピ」や食品ロス削減に向けた「エコレシピ」の考案等個人でできる取組にシフトチェンジを行い、活動を継続してきました。

「旬の府中産野菜を使用したレシピ」については、JA マインズを始めとする市内農産物共同直売所の野菜売り場に配架させていただくことで、好評を得ており、食育推進リーダーパブリカ会員に、配架しているレシピの在庫状況など確認いただきながら、追加補充等も行っていきます。

また令和2年度に作成した食育リーフレットについては、若い世代の食に関する意識を高められるよう、令和3年度の食生活改善普及運動月間、令和4年度の食育月間にてそれぞれ市立小中学校の児童生徒に配布し、家庭に向けた発信を行いました。

大学との協働事業では、東京農工大学と連携させていただいており、新入生対象食育講座

では、「食料・環境問題」の授業にて、食事バランスガイドによる食事診断や野菜の摂取・バランスのよい食事等について啓発するとともに、学生さん個人からの食生活相談についても対応させていただいております。

授業受講後のアンケートでは、2割程度の学生から、食生活に関わる質問・相談をいただきました。受講生皆さんに関わる内容については、授業担当の先生から受講生全員に、個人に関わる内容については、ご本人に返答させていただいています。また、「府中市の食育活動に興味があるか」「食育活動に参加したいか」という質問項目も挙げており、令和4年度は66人の学生から興味がある、4人の学生から参加したいというお声をいただいています。

今後、この学生たちと連携した食育推進に係る活動ができればと検討しているところですが、具体的な手法について、委員の皆さまがお持ちの好事例やご提案等ございましたら、ぜひご教示いただけますと幸いです。

また、(株)東芝 府中事業所との協働事業については、全従業員に配信している「ヘルスレーター」に、令和2年度から引き続き、市からの食育記事を掲載させていただくとともに、令和3年度は、府中事業所の80周年記念イベントにおいてもコラボさせていただきました。地産地消の推進や野菜の摂取量増加を目的に、市で考案したレシピを食堂でメニュー化して販売したところ、通常販売しているメニューと比較して20%増の売り上げがあり、大変好評だったとの報告を受け、実施日を追加設定して販売、令和4年度についても継続して実施していく予定となっております。

また、関係機関と連携した普及啓発では、6月の食育月間にちなみ、むさし府中商工会議所メールマガジンにて、バランスのよい食事に関する食育コラムを掲載させていただきました。関係機関との連携により、働き世代に向けた発信ということを視野に、引き続き、実施させていただきます予定です。

【会長】

盛り沢山のプログラムが展開されていますが、ご質問、ご意見いかがでしょうか。

【委員】

様々な活動されているので私のほうから特に意見はございませんが、例えば大学生とかで、何か特に課題になっていることはありますか。一人暮らしの学生さんが多いのでしょうか。

【事務局】

一人暮らしの学生さんが何%いるかという統計は持ち合わせていないのですが、多くいらっしゃいます。一人暮らしの学生さんからご質問をいただく際は、自炊を頑張っている学生さんが多く、一人分の量で作ると食材を余らせてしまうとか、食費がかかってしまうというお声をいただくことが多いです。そういうお声をもとに食育推進リーダー パブリカの皆さんと協働でレシピ考案をさせていただき、一人暮らしの学生向けのレシピ集を作成し、食育講座を実施している大学の授業等で配布させていただいております。

【委員】

一般の方向けに色んなメニュー展開があると思うのですが、フレイル予防の食事のこと等、活動しているものはあるのでしょうか。

【事務局】

フレイル予防については、先ほどの元気いっぱいサポート事業の中でご報告させていただきました。元気いっぱいサポーターを対象に送付させていただいています「サポーター通信」の中で周知・啓発を行いました。元気いっぱいサポーターの年齢層が、60代70代が多くいらっしゃることを踏まえ、「フレイル予防」というテーマをもとに、保健・栄養・歯科の観点から、3職種で作成した資料の送付にて啓発させていただいたというものがございます。

【委員】

ここに企業との連携ということで、株式会社東芝と連携して野菜レシピを提案したということがありますが、府中市内いろいろな企業例えばいろんな NEC とかキューピーがあるので、やはり成人期の方々の健康づくりも大切になるので、そういったところの企業でも昼食の提供があると思うのでそこでの提案も広げられたら良いなと思います。

【会長】

非常に重要なご指摘だと思います。ひとつは他の企業さんへの要望展開の可能性だと思います。もう一つは、私も非常に興味を持っていましたのが、メニューとして取り入れられているとあったが、定番メニューで入っているのか、時々だけなのか。できるだけ一般化した方がよいと思ったがその辺の浸透の仕方にはどのような展開があるのでしょうか。

【事務局】

東芝さんでのメニューの販売というのは期間を決めて日替わりで実施しております。食堂事業者さんから、定番メニューとして日々販売しているとなかなか注目を浴びづらいということで、イベント化した方がインパクトあるのではないかとのご提案をいただいております。毎月か隔月くらいのペースで、期間限定の日替わりで1品ずつ各食堂にて販売いただいている状況です。

【会長】

他の企業さんはどんな感じですか。

【事務局】

昨年度、東芝さんからご連絡いただきまして府中市内の企業さん、サントリーさん、NECさん、東芝さん、キューピーさん等と府中市内の企業連絡会を行いました。市から東芝さんと行っている事業を共有させていただきまして、他の事業者さんから一緒にやりたいとのお声もいただいておりますので、今後ぜひ展開していきたいと思っております。

【会長】

いろんな企業との連携で、サントリーさんは自分のところでいろいろ実施されていると思いますし、キューピーさんも会社を挙げてフレイル予防の食の普及をやっているようですので、市のほうが情報提供するだけでなく企業さんからフィードバックをもらいながら推進していくというのを期待したいと思います。保健所さん、松本委員何かありますでしょうか。

【委員】

世代を問わず、たくさんの食育事業をされていて素晴らしいと思いました。いろいろな農作物も採れると思いますし、それを使ったレシピ等の提案や食育リーダーさんの育成にも力を入れていらっしゃるって、市を挙げて取り組まれている素晴らしいと思います。保健所も府中市を含む管内6市と関係機関のネットワーク会議で、昨年度まではフレイル予防をテーマにやっていたのですが、今年度と来年度は青年期をターゲットにした事業を実施しようと思っています。府中市にもご協力をお願いいたします。

【事務局】

大学生との連携について、何か好事例ですとかご提案があれば、伺いたいです。

【委員】

大学生は結構入りづらいただろうなと思いながら、よくやってらっしゃるなと思いました。今まで高校生までは親御さんがご飯を作ってくれて、それをただ食べて、食事づくりを手伝わずにきて、大学生になって一人暮らしを始めてようやく台所デビューしたという話はよく聞きます。ご飯作りは、本来でしたら小さい頃からお手伝いをして馴染むのが良いなと、食育というのはそういうものだと思うのですけれども。この間、土日に食育推進全国大会で映画を上映しており、お弁当の日の続編でした。それを見ていたのですが、料理の持ち寄りパーティーをするグループに参加した大学生が、大学生になって初めて買い物から料理作りまでやってみて、実際に自分がいかに作れないかという事を体験し、野菜をそのまま冷蔵庫に入れてダメにしたとか、失敗しながらも料理作りに取り組む様子が紹介されていました。失敗談はいろいろ聞きますが、実践が重要だと思います。可能であればどこかのチームをコラボして、多世代で交流みたいなのも良いでしょうし、お年寄りのグループか何かと食育リーダーさんもいらっしゃるのでもうそういったところと交流して、希望する学生とサークルのような形で継続的にできると面白いかなと思いました。

【会長】

今回4人の学生さんがかなり、熱を持っていらっしゃるというのもありますので、学生からすると市の事業に入る入り口として、ボランティアサークルの形などあるとよいと思います。元気いっぱいサポーターさんもシニアに限っているわけではないので学生の参加も大歓迎だと思いますし、まさしくこれが世代間交流だと思います。学生が入るとかなりセンスといますか、発信力がありますし、アイデアも斬新な部分があると思います。そういうところでシニアさんの活動も活性化すると思います。学生さんが定期的に活動できる機会を作るのが大事だと思います。清水さん、学生が入ってきたら対応はどうでしょうか。

【委員】

今は極端に言うと若い人を希望して、ノルディック歩く時は、ストックを持っている方は必ず目につくようにして活動しています。私どもだけではなくて、ノルディックなどは講習会をしているので、「どういうことをやっているのですか」と言ったお声がけをいただいています。今、若い方の食生活は自分たちと感覚がかなり違うと思うので、それも楽しいコラボになると思います。これから機会があればやっていけると思います。

【会長】

稲元委員、食育の部分でかなり市と関与していると思うのですが、意図としては農福連携ということで食べるだけでなく、作物を住民と一緒に作るところからコラボしていくような取り組みもいえると思います。上手くいっているところは、いきなり高齢者の方と農協さんですとか企業さんがガチにやるだけではなくて、ワンクッション学生やNPOが入ってうまくコーディネートされている事例もあるかと思っています。今後JAさんも市民のボランティアとコラボする可能性は考えられるのでしょうか。

【委員】

学生とのコラボは今のところ何も考えていないのですが、持ち帰ってこういうご意見があったということで前向きに検討できたらなと思っております。

【会長】

学生というより市のボランティア団体に学生も高齢者も入っている建付けで良いのかなと思うのですが。

【委員】

どちらかという、農協は食育で親子の料理教室などをメインでやってきているので農福連携ですとか学生さんは今後の課題になるかなと思っております。

【会長】

最近農協の色々な役割が注目されている事例もございまして、私の知っているような事例なんかでも特に高齢者の方とかの就労的活動といいますか、有償ボランティアみたいなもので作物を作ってそれを一部もらって帰られたり、あるいは道の駅に出したりというところで、農協さんがバックアップしたりコラボしたりということもございまして、親子向けの食育だけでなく、いろいろな市民の方とのコラボの在り方があるかと思っていますので、アイデアをだしていただければと思います。

【委員】

自大学の別の学科の取組なのですが、農家の手伝いを学生がして取れた野菜を使ってみんなでごはんをつくるという取組もございましたので、そういった楽しいところがあると大学だけじゃなくていろんな世代で取組が展開できるのではないかなと思いました。

【会長】

商工会議所さん、いろんなお店や事業所とのネットワークを束ねていらっしゃると思いますが、学生やシニアの方々のというような健康づくり面と住民の方々のコラボもありえるかなと思っております。学生にどれほど活躍してもらえるかとか商工会議所さんからご提案いただけますか。

【委員】

今日初めての参加なのでわからないことだらけです。資料を見ながら感じたことなのです

が、こういうことは社会活動だと思うのですが、大学の中に社会活動ができるサークルがあるのではないのでしょうか。まずはそのサークルに依頼をかけて参加してもらい、そこを足掛かりとして他の学生に PR してもらうのが効果的ではないのでしょうか。

先生や役所の職員が学生にいろいろ言っても伝わらないと思うので、学生がやっているサークルで、社会貢献を目的としたサークルに依頼をかけて、彼らに食育やノルディック、読み聞かせなどトータルで参加してもらって広げた方が良いと思います。ここで議論していてもつながらないと思います。

東芝の件なのですが、宮西町に住んでいるので、ヤオコーによく行くのですが、南側の入り口から入ると調理実演しています。せっかくここで栄養士さんがレシピを考えているのですから、栄養士さんにレシピを作ってもらってそこに置いてもらって、お店で PR してもらうのはどうでしょうか。地産地消のコーナーもあったので、そこと一緒にやると良いのではないかと思います。企業に対してやるのも良いと思うが、より多くの人目に触れる機会があると良いと思います。

【事務局】

多世代間交流、スーパーマーケットや学生サークルなどへの介入等検討していきたいと思っています。ありがとうございました。

【会長】

最近、意識の高い学生も多いと思うので、個の取組と整合性のとれた考えの学生もいると思います。

ウ 各種健（検）診について（資料4-3）

【事務局】

成人・若年層健康診査、がん検診事業、歯科保健事業について説明いたします。

まず、1の健康診査です。本市の各種健康診査は、高齢者の医療を確保する法律に基づき、生活の質の維持・向上を目的として、生活習慣病に着目した健診として、例年7月から9月に市内約90か所の協力医療機関にて実施しています。令和2年度、3年度につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、感染対策として完全予約制とし、実施期間を延長また、実施内容を縮小して実施いたしました。

各種健診の受診状況ですが、対象者数に大きく変化はありませんが受診率で見ると横ばい、また、令和2年度以降減少傾向にあることから新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えが懸念されます。続いて令和4年度の実施計画ですが、資料下段に記載のとおりコロナ禍以前と同様に実施予定です。初期の生活習慣病は、自覚症状がないことが多いため、定期的に健診を受け、自身の健康状態を把握しておくことが、生活習慣病の早期発見、治療につながります。今後も市民がコロナ禍においても安心して受診できるよう感染状況や国の動向を踏まえながら実施してまいります。

続いて2の歯科保健事業についてご説明いたします。資料4-3の裏面をご覧ください。成人歯科健康診査事業は、平成元（1989）年より「生涯にわたる歯と口の健康保持・増進及び8020の実現」を目指し、また、かかりつけ歯科医の定着の推進のために市内約100か所の協力歯科医療機関で実施しているものです。

対象者についてですが、令和元年度までは、18歳以上の者で健康増進法に定めている

40歳、50歳、60歳、70歳の年齢の者に勧奨通知、それ以外の年齢の者は申込み制で実施してまいりました。令和2年度は、コロナ禍での実施のため健康増進法に定めている年齢の者と訪問歯科診療のみの変則した形で実施いたしました。令和3年度につきましては、対象者の見直しを行いました。限られた市民だけの利用ではなく、受診したことがない市民、関心の低い市民に歯と口の健康に関心を持ってもらい、かかりつけ歯科医を持つきっかけとなる歯科健診になるように、申し込み制を廃止し、勧奨年齢を10節目年齢追加し、14節目とし、対象者全員に受診券を送付、平等に受診する機会を持てるように実施いたしました。また、実施期間も2か月間から3か月間といたしました。これは、保健計画の（P95～96）3、市民自らが健康を管理する（ウ）むし歯や歯周病の予防に向けた取組の推進にある「幅広い世代が平等に受診する機会を持てるように」に則した変更と捉えております。尚、令和3年度実績については、緊急事態宣言中だったため、予定していた3か月間ではなく2か月半になってしまったこと、また、歯科健診の受診控えが見られることから受診者数は見込んでいた数より少なかったですが、対象者を変更したことにより受診率は増えております。

（2）（3）については、其々健康増進法対象、後期高齢者医療制度対象の再掲になります。令和4年度の実施計画につきましては、令和3年度と同様に実施する予定です。

続いて、府中市がん検診事業についてご説明いたします。[資料4-3](#)②をご覧ください。本市のがん検診は、健康増進法及び国・都の指針に基づく検診として、胃・大腸・肺・乳・子宮の5つのがん検診を実施しております。喉頭がん検診、前立腺がん検診は平成30年度、令和元年度に開催した「がん検診検討会議」での方針に基づき、令和2年度に廃止し、令和3年度に胃がん検診の内視鏡検査を導入いたしました。

資料のとおり各がん検診の受診率は、令和2年度に全てのがんで減少しておりますが、こちらは新型コロナウイルス感染症の蔓延による影響で、前期を中止し、後期のみ縮小して実施したため受診者数に影響がありました。令和3年度は例年どおり実施しましたが、乳がん・子宮頸がん検診については、コロナ禍以前の受診率に戻りきれていない状況です。現在も新型コロナウイルス感染症の影響により、検診を控えている市民がいると推測します。

令和4年度は、資料に記載しておりますが、当初、保健センターの工事が予定されていたため、保健センターで実施するがん検診は前期が中止となっております。コロナ禍でも受診者が安心して検診が受けられるよう、引き続きがん検診の周知方法、受診しやすい環境等を工夫し受診率の向上に努めてまいります。

【会長】

ご質問、ご意見いかがでしょうか。

【委員】

健診はコロナの影響で去年・一昨年は期間が延びたり内容が変わったり、市民の方の受診控えもありました。今年からは元に戻るといことなので頑張りたいです。多くの皆さんに受けていただいて生活習慣病のピックアップに繋がりたいです。

がん検診に関して、資料にあるとおり胃がんに内視鏡が対策型検診というかたちで始まりました。限定した医療機関で実施しています。受けていただくと病変の発見にも繋がりますのでぜひ受けていただきたいです。私の認識としてはコロナの危機を乗り越えてやっと元に戻ってきています。がん検診については少しリニューアルが必要という認識です。受診率

の向上はどうしても課題になると思います。

一つだけお聞きしたのですが、フレイル健診の実施について考えていらっしゃるのかお聞きしたいことと、保健センターの工事はどうなっているのでしょうか。

【事務局】

フレイル健診につきましては、具体的に決定しているところはありません。主幹は高齢部門になりますので、状況を共有しながら動きがあった時には本会議でもご報告させていただきたいと思っております。

保健センターの工事につきましては、期をずらして予定よりも短い工期となるよう、調整をしているところです。途中ですが説明を代わらせていただきます。

【事務局】

保健センターの工事ですが、今ご説明したとおり工期を短くすることで調整しています。実は、コロナの関係で部品を作っている中国の工場が止まっており、調達が間に合わなそうということで、電気工事を前期の期間に予定し多めに工事期間を取っていたのですが、その部分は2月に期間を1か月と短縮してできる見込みとなっております。そのため、前期に予定はしていたのですが部品が入ってこないということで中止し、2月に後期のがん検診が終わってから実施するという形で調整しております。

【事務局】

令和4年度は、がん検診が前期中止としておりますが、その分後期の期間を延ばしていること、枠を増やしていることから申込の定員には影響しないように事業は継続実施していきます。

【会長】

フレイル予防健診について、これは後期高齢者を対象とした介護と保健の一体化事業の一環であるかと思いますが、田邊委員、何かフレイル健診について情報をお持ちでしょうか。

【委員】

以前フレイル健診の問診票が出たときに高齢者支援課と話しをしたのですが、実際にフレイル健診はなくて、今高齢者支援課さんは基本チェックリスト25項目を70歳から2歳刻みで毎年6月1日にお送りしています。その分析は高齢者支援課さんがされています。実際にはその人数は把握していないのですが、その方々にフレイル予防の講習会を受けませんかというにかたちでご案内を差し上げて、そこでご希望がある方については握力や歩行速度等を問診及び実技で測り、フレイルをご自身で知っていただき、どのように解決していけばよいか説明しています。パンフレット等を活用しながら普及啓発をしている状況です。

【会長】

ここ2～3年は東京都がかなりフレイル予防について推進している流れがありまして。今年度から20～30位の都内の自治体で始まっていると聞いております。今後、かかりつけ医の先生との接点といいますと、そこでフレイルのリスクのある方、特に栄養面ですとか社

会面、身体面といったところで心配な方に対してアドバイスなどするのが重要なと思います。黒米先生、歯科の健診についていかがでしょうか。

【委員】

成人歯科健診は、コロナ前までは申し込み制だったので、一時は受診者が1万人超えた時もありました。全国でもトップクラスの受診率だったのですが、コロナになり、医科は分からないのですが、歯科は、最初コロナが移るのではないかという雰囲気と、患者さんも大したことがないのに受診して良いのかという雰囲気があり、先生方は一般の診療でも苦勞なされたようです。去年から対象年齢が10歳刻み、5歳刻みになり、少しずつ受診者が増えてきている状況です。歯科医師会としては、若い方の受診率を増やしたいと思っていますが、自分の診療所に来る市民の声としましては、今まで税金を納めてきたのだから、せめて後期高齢の75歳位からは毎年受けられるようにして欲しいという声も出ております。

エ 自殺対策事業について (資料4-4)

【事務局】

自殺対策事業における令和3年度事業報告及び令和4年度の計画についてご説明させていただきます。初めに、お配りした資料に赤字で記載してある内容が各年度、重点的に取組み、拡大した内容になります。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、感染防止を視野に入れ、各事業を取組みました。令和2年の国による地域自殺実態プロファイルの分析で、府中市では“勤務・経営”に係る対策が必要との結果を受け、初の試みとして市内企業の産業保健師連絡会にてこころの相談窓口のリーフレットを紹介し、配架致しました。また、新型コロナウイルス予防接種の集団接種会場を利用して幅広い年齢の方々の目に留まるよう、相談窓口の周知を行いました。周知活動以外では、定例の自殺対策関係機関連絡会、分科会等を開催し連携の強化に努めました。具体的な自殺未遂、既遂事例の傾向としては、既遂事例が例年になく多く把握されました。そのため、既遂事例に関して精神科医のスーパーバイズのもと、事例検討を行い関係者の支援や事例の理解に努めました。

続きまして、令和4年度の事業計画について説明致します。令和3年の地域自殺実態プロファイルの分析で、“子ども・若者”の分野の推奨がなされたことも考慮し、若年層向けの対策について強化していく予定です。具体的には、6月に開催予定の教職員向けゲートキーパー研修の内容として例年は講義のみであったものを、具体的事例をグループワークで検討し、実践に活かせるような内容に変更しました。また、毎年5月に新中学1年生に向けて、こころの相談先のリーフレットを配布していますが、今年度は配布するだけでなく市内小中学校のスクールカウンセラー連絡会に担当者が伺い、相談を受けたスクールカウンセラーからも子どもたちに相談を受けた際に渡せるように工夫致しました。昨年度感染防止のため中止していた中学生に向けた「SOSの出し方に関する教育」も今年度は実施する予定になっております。

【会長】

ご質問、ご意見いかがでしょうか。保健所さんからいかがでしょうか。

【委員】

幅広い年齢へということで、ワクチン接種会場や神社で行う試みは良いと思います。いろいろな機会で啓発していると感じます。若年層へのリーフレットは中学校1年生の時期に配るのが効果的と考えているのでしょうか。これから受験や高校を控えた子供もリスクがあったりするのかなと思うので教えていただきたいです。

【事務局】

特に中学校1年生に対してということの根拠について、はっきりとしたものは無いのですが、小学校がいくつか統合して中学生に入学することで不安定になる年齢です。また、中学校2年生くらいになってくるとリストカットや、死にたいという訴えを先生に出す生徒も増えてきます。学校から健康推進課に相談が来るが多くなるのが中学校2年生くらいのため、中学校1年生に向けて配っているのが状況です。

【会長】

さらに今年度から赤字の部分強化してやることになると思います。今回の事案については、ここまでとさせていただきたいと思います。

7 その他

令和4年度府中市保健計画・食育推進計画推進協議会開催スケジュールについて

【事務局】

第2回を11月、第3回を2月に開催予定

【会長】

これで本日の第1回府中市保健計画・食育推進計画推進協議会を終了いたします。長時間にわたり、お疲れ様でございました。

以上